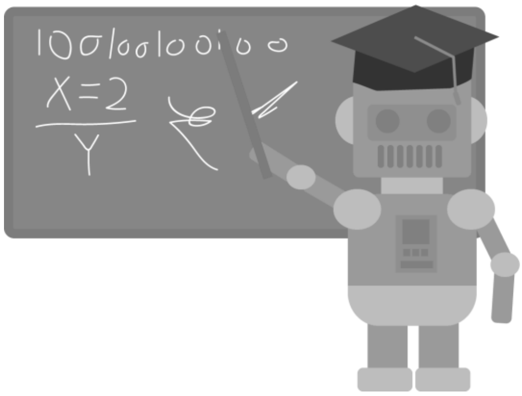
校長室雑記

笑ってごらん

第 618 号　H. 30. 3. 16 発行

～今日のことば～
山中の賊を破るは易く、
心中の賊を破るは難し。
（中国の思想家：王陽明）

◇◆平成 29 年度がもうすぐ終わる。この 1 年間を振り返るだけでも様々なことがあった。思う以上に成果を挙げることができた取り組みもあろうし、それとは反対に十分な結果を得られなかった事柄もあろう。いずれにせよ、それらを良き経験として今後の成長に反映させていかなければならない。大切なことは今の自分よりステップアップすること。　◆ニューヨーク市立大学大学院センターのキャシー・デビッドソン教授によると、「2011 年に小学校に入学した子どもたちの 65％は、大学卒業後に今は存在していない職業に就く」と予測した。2011 年といえば今から 7 年前。現在ニュースなどで取り沙汰されているＡＩ（人工知能）技術だけをとってみても、7 年前は本当に専門家の研究対象という範疇でしかなかった。それがいまはどうだろう。囲碁や将棋の名人がＡＩと対戦したり、現段階におけるＡＩ技術の粋を尽くしたヒト型ロボットがホテルのフロントに立ったりしている。今や「ヒトを超越した存在」となりつつあるＡＩ。デビッドソン教授による予測のように、今後の技術成長・普及によって、今の子どもたちが大人になって社会に出て行く頃には、職業の在り方は大きく変わっていくことは想像に難くない。　◆また、グローバル化の浸透スピードも早くなってきており、国外をも視野に入れた対応を迫られている。ここ日本においては中学校・高校と「英語」を学んできてはいるが、だからといって英語をコミュニケーション言語として自由に操れる人はそう多くない現状。この実態を鑑み、小学校から英語の授業が行われることになった。「読む・聞く・書く・話す」の４技能をしっかり身につけることが求められている。一方で、近隣国との交流が加速することを想定して、いまは中国語や韓国語を履修する高校もある。　◆大学入試改革も行われる。2020 年度から現行の「大学入試センター試験」に代わり、「大学入試共通テスト」が導入される。これまで以上に拡大される「総合型選抜」や「学校推薦型選抜」で活動歴報告書が求められ、「何を学んで何を考え何ができるようになったか」が問われるようになる。したがって、自分の活動の蓄積や振り返りの基盤となるポートフォリオを作成し続けることが必要である。　◆このように、私自身が高校生だった頃には到底考えられなかった「変化」が世の中に生じている。今後はもっと「予測困難な変化」が加速していくものと思われる。皆さんは、こうした変化の激しい未来を生き抜いていくための力を身につけなければならないのだ。「泰然自若･･･座して待つ」と言えば聞こえは良いが、ゆったり構えて単に待っているだけでは、これからの世の中には対応できない。世の中の変化の状況を見極めるために視野を広くすることが大切である。自分の好きな情報だけ入手していてはダメである。好む好まざるに関わらず、たくさんのことを見聴き体験していこう。



～・

感謝道

◇◆29 年度もあんなことやこんなことを思うままにそこはかとなく書きつくった『笑ってごらん』であった。楽しんでもらえたであろうか。週刊発行を心掛けていたのだが、日常の業務処理に追われたり、校外での会議出席などで原稿作成ができないこともままあった。また、書きたいネタがまとまらずにゴチャゴチャな内容になってしまったことも多かった。毎度毎度駄文に目を通していただいた皆さんに感謝申し上げる。来年度もよろしく！